

## 平成29年度 特色ある区づくり予算（東区自治協議会提案事業）について

平成28年9月29日現在

事業名	地域防災推進事業	「見つけた東区まちの宝箱」改訂版の発行について	「新潟東警察署」新設に伴う安全安心フォーラム推進事業	地震・津波浸水害・雪害など新潟市災害〇〇〇年史について
事業目的 (期待される効果)	避難所開設に係わる運営がスムーズになると考える。	この冊子は、今後もさらに改訂して内容を充実させ、東区の貴重な資料としていくべきである。	内容欄に概略を記載済である。	このパネルを通じて防災意識の向上に結びつくのではと考えている。
事業内容	<p>地域のコミュニティ協議会や自治・町内会は防災組織を編成し、定期的に防災訓練を行っているところであるが、これら訓練は、避難所が開設された後の内容にまで至っていないのが主と思われる。</p> <p>そこで、この事業によって避難所運営訓練についての方向性を進めるものである。</p> <p>企画実施にあたっては、防災士が参画し、従来の訓練とは異なった内容とする。参加者も避難所運営委員や少数の地域住民とするなど。</p> <p>行政側には、少なくとも参加人数分の助成金がもらえるようお願いしたい。</p>	<p>この冊子の初版は、第3期の自治協議会委員全員参加のもと、平成24年10月1日付けで発行しました。</p> <p>発行から5年を迎えるにあたり、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○掲載内容に変更がある。</li> <li>○新規に掲載する記事がある。</li> </ul> <p>などから、初版の時と同様に、各部会で内容を検討のうえ、最終的に全体で決定して改訂版を発行すべきである。</p>	<p>新潟政令市発足以来の念願であった警察署が、平成29年夏頃に新潟東警察署として発足するに際し、記念事業を検討した。</p> <p>東区の安心安全な地域づくりは、行政のバックアップにより地域が主役で推進しているという現状を踏まえ、治安の要「新潟東警察署」庁舎の竣工を迎え、喜びに堪えない。</p> <p>迎える側の区役所及び自治協議会もこれらに迎えるため、この竣工を契機に協働でフォーラムを開催してはどうかと考えた。</p> <p>このフォーラムは、同庁舎の竣工から発足まで間、「東区治安の要」出発に際し、区役所と自治協議会が一体となって検討し、計画を立てて実施すべきである。</p> <p>その内容は、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○第1部 講演会又はパネルディスカッション（防犯や交通安全問題等）</li> <li>○第2部 寸劇や腹話術の披露（寸劇は特殊詐欺をテーマとし、その被害者は自治協議会の委員が担当する？）</li> </ul> <p>とし、その後、第3部として新庁舎の施設視察を実施することも必要と考えている。</p> <p>これら全てを含め（特に新庁舎視察は？）、警察本部の新潟市警察部及び新警察署竣工の各責任者と協議のうえ、実現を以前から考えていた事業である。</p>	<p>○地域の皆様から「過去の災害」をパネルにして認識してもらい、自然災害はいつどんな状況で発生するかわからないなど、日頃から自然に記憶に留めておくためにも、PR活動が重要である。</p> <p>○そのために、年史のパネルを作成し、公共施設、コミュニティ協議会や自治会の施設などに掲示して、防災意識の向上を図ることも必要なことである。</p> <p>○パネルにする災害の〇〇〇年史は「100年とか50年にする」かは、過去の歴史を考慮して決める。</p>
概算事業費				
その他参考事項			この事業は区役所企画事業にも提案したが、自治協議会と協働事業として実施も可能かと考えている。	パネルの記載内容や設置枚数などが確定しないので不明。
提案者	長谷川 徳昭	折笠 正寛	折笠 正寛	折笠 正寛
検討部会での意見				

平成29年度 特色ある区づくり予算（東区自治協議会提案事業）について

事業名	「みんなで考えよう！自助の力」改訂版の発行について	地域防災意識向上事業について	高齢者のつどい	事業を振り返り、改善に向け検討する
事業目的 (期待される効果)	この冊子は、今後もさらに改訂して内容を充実させ、東区の貴重な資料としていくべきである。	内容欄に概略を記載済であるが、これらの事業は、毎年内容を変え実施していることからマンネリ化にならないことが重要である。		区内の老若男女が集う場を増設することによって区全体の交流の活性化を図る。
事業内容	<p>この冊子は、第4期の自治協議会（担当 第1部会）が平成26年3月付けで発行した。発行から4年を迎えるにあたり、</p> <p>○掲載内容に各部会の担当分野に防災に関するところがあるのでそれらを盛り込む必要がある。</p> <p>○掲載内容に変更がある。</p> <p>○新規に掲載する記事がある。</p> <p>などから、改訂するべきでないか考えた。</p> <p>改訂には、各部会で担当分野に関する何かしかな件があるので、それらを検討され、最終的に全体で決定して改訂版で発行するべきである。</p>	<p>○いろいろな防災訓練等を繰り返すことにより「自助・共助」の機運が自然な動作としてパフォーマンスできることになり、地域住民の防災意識が高まったと言えるのではないかと考える。そのためにもこの事業を毎年実施することが重要である。</p> <p>なお、平成29年度は、概要、講演会とワークショップを次のように実施してはどうか。</p> <p>○講演会では、防災士の資格があって、防災や災害救助及び復旧などに尽力され、地域との関わりを深めている経験者を講師に招いて講演を受ける。</p> <p>○参加者は、地域住民から広く募集し、特に、防災士、自治会・コミュニティ協議会等の関係者、学校関係者（教職員・中学生以上の学生）、各種施設の関係者などとする。</p> <p>○講演会終了後、各班でのワークショップを開催する。</p> <p>○必要に応じ、防災用具や非常用飲食物等を展示する。</p> <p>○この事業とそのほかの事業などを編集し記録化する。</p> <p>○その他</p>	<p>○東区プラザホールで講演、軽い運動、寄席の3部</p> <p>○高齢者が健康寿命に関心を持ち、自分の足で自分のことができる。</p> <p>○東区の運動推進委員と共に、軽い運動。</p> <p>○新潟市在住の落語家に依頼。</p> <p>○健康に関心が大いにある東区の高齢者にもっともっと医者不要な生活を送ってもらおう。</p> <p>○家に閉じこもらずに外に出る生活</p>	<p>ワークショップや先進地視察、研修会等、実施した中から改めて各部会単位で改善点をピックアップする。</p> <p>時間がかかること（他機関との連携や予算等の関係）、ただちに着手できることに分けて、いくつかの事業を決定する。さらに、自治協全体の事業にまとめる。</p> <p>例えば、第2部会ならば（新潟県立大学生とのワークショップの中から）、区内の福祉の現状やイベント情報の広報・周知・伝達をする。若い人達と高齢者との交流の場や機会を増やす。大形駅近くに気軽に立ち寄れる場（コンビニ併設等）を設ける等々。</p>
概算事業費				
その他 参考事項			できることなら歩くこと、区バスに乗ることができず、行きたくても行けない人の援助があればなおよし。	
提案者	折笠 正寛	折笠 正寛	佐藤 恵子	本望みな子
検討部会での意見				

平成29年度 特色ある区づくり予算（東区自治協議会提案事業）について

事業名	地域の繋がり	温かな東区共生社会の創出	災害発生時における 連絡体制構築支援事業
<b>事業目的</b> (期待される効果)	子どもの貧困、お年寄りの介護、引きこもりにおける問題点を検証し、地域・コミュニティとしてサポートしていけることは何かを考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 少子高齢化で今後増えると考えられる独り住まいの老人・障がい者の支援、児童虐待相談件数が市内No.1の汚名の解消の一助</li> <li>・ 各コミ協に一つ程度立ち上げの推進及び支援</li> <li>・ 共生の意識の向上</li> </ul>	今まで、自治・町内会、コミュニティ協議会ごとに行ってきた防災訓練を、地域と行政との連絡訓練へと移行し、より具体的な防災訓練を行うことにより、連絡体制の確立を図り、防災減災意識の向上を目指す。
<b>事業内容</b>	自治協議会第2部会 福祉と教育部門で以下の事業を行う。  1 健康福祉課、社会福祉協議会、地域包括支援センター等から、子どもの貧困、お年寄りの介護、引きこもり等に係る問題点等の話を聞く。 2 子ども食堂などの子どもの居場所、地域の茶の間、地域が運営しているお年寄りの居場所等を視察する。 3 子ども達、お年寄りに共通する居場所、支援について、地域ができることは何か、ワークショップを行い考える。 4 居場所づくりの参考として活用できるよう、冊子にしてまとめる。	○自治会として新石山第一、柳ヶ丘等、任意団体としてじゅんさいの会、木戸のきずな会等が生活支援のためのボランティアを立ち上げ、活動を実施し、地域の方々から好評を得ている。 ○ボランティアに関心のある自治会役員や区民を対象に、①立ち上げ、②運営方法、③地域への効果等、活動事例の発表等を行う会合を区役所にて社会福祉協議会と協働で開催する。 ○参加対象は自治協議会委員、ボランティアに関心のある区民。	災害発生時より、各避難所から避難所への連絡方法及び役所との連絡方法の確立を支援するため、各コミュニティ内の連絡方法や各避難所と役所との連絡方法をシミュレーションし、問題点の解決に向けた取り組みの支援をする。  <事業方法> 前期は各コミュニティ協議会の現状を把握するために、アンケート及び意見交換会等を行い、問題を抽出して解決方法を検討し、シミュレーション訓練を実施する。 後期は、実践的な連絡網訓練を実施し総括する。
<b>概算事業費</b>			連絡網構築に係る軽微な備品、総括記録作成費用など 300万円
<b>その他 参考事項</b>			
<b>提案者</b>	山田 久美子	井上 貞男	若槻 勲
<b>検討部会での意見</b>			